

NPO法人熊本まちなみトラスト 第 52 回理事会議事録

- 日 時 2021(令和 3)年 8 月 23 日(月)18:00～19:30
- 場 所 県民交流館パレア 9 階 会議室 2
- 参加者 理事 9 人(委任出席を含まず)
青木勝士／麻生田栄壽／竹田宏司／鄭 一止／豊永信博／富士川一裕／松波大仁／三國隆晶／
山田穰 9 人 (三國理事途中退席)
委任状出席者※=11 人を加えた理事出席者数 20 人(理事総数 24 人中)

議長席に竹田副理事長が着き、議事録署名人に山田理事と青木理事を指名し、議事に入る。

1. 9 月予定の例会・研究会@川尻

- (1)中止とする
 - ①9 月 12 日までまん延防止措置
 - ②会場予約できない
 - ③準備期間がない
- (2)今後の方針
 - ①少し時間をとる(ゆったり構える)
 - ・来年度でもよいのでは
 - ②9 月例会(やるとすれば 9/27(月))は・・・
 - ・熊本市文化財課を招き、郷土文化財 についての勉強会
 - ・不可の場合 11/22(月)？
 - ・竹田理事と事務局で準備進める
 - ・9/27(月)でパレア会議室 9 での予約済ませる

2. 事務局移転Bスタでの試行事業

- (1)実施時期
 - ①9 月中旬～12 月中旬を基本とし
 - ②コロナ禍におけるBスタの状況も勘案しスタート時期を決める
 - ③場合によっては年明けも
 - ④しかし、来年度からの本格移行を考えると急ぐ面もある
- (2)移行プログラム
 - ・データの移行、クラウド化
 - ・Bスタとの打合せ 4 万円／月 に含むこと 含まないこと など
 - ・倶楽部の使用
 - ・備品の貸与
- (3)コンセプト(基本的な考え方)
 - ①作業の共同化・・・前向きな意見

- ②会報Newsの共同作業 など
- ③週2～3日の事務局常駐
会計、フォルダ内 DATA の整理等

3. News Letter の発行

- ①編集責任者を定める・・・宮野理事(既定方針)・・・すぐに依頼
- ②コピー印刷など簡易化して回数増やす・・・前向きな意見
- ③郵送ではなくPDF化してメール配信希望を聞く(追)
- ④

4. 中期戦略

(1)「結节点」をめぐって

- ①「結节点」だった(竹田)
- ②(追)災害後の「火の国会議」の役割りは大きい(非常時)←→(平時)KMT

(2)「まちづくり」をめぐって

- ①まちづくり協議会？まちなみ協議会？
※1980年代後半～2005年くらいまで活動していた(会長は故堀内清治氏)
熊本の産官学の建築関係者が結集し事務局を市・県が担っていた
- ②堀内先生は「まちなみ」にこだわっておられた
- ③KMTも「まちなみ」にこだわっているが、意味はもう少し広い
- ④着地点として「まちづくり」があることは重要
- ⑤KMTの活動が「まちづくり」に役に立つことは外からの評価の重要な点
- ⑥「まちづくり」とは、価値を共有しながらまちをよくする活動
・価値感の共有、危機意識の共有・・・熊本城は残っても城下町が消滅するかもしれない！
・とともに復興ビジョンを共有すること
- ⑦「まちづくり」の直接の担い手でないところが評価を得にくい点
- ⑧「結节点」、「触媒」であるので、成果が見えにくい

(3)「価値の共有」をめぐって

- ①文化財関係者の弱いところ
- ②「価値の共有」に対してKMTが将来どのような役割りを担えるのか？

(4)企業にとってのメリット

- ①100年企業とKMTの親和性は高い
- ②KMTの全体の理念を企業向けに合わせる必要はない
- ③大きなキャッチフレーズと企業向けキャッチフレーズは分けたほうがよいかもしれない
- ④まちなか(中心市街地)への貢献、というKMTに対する見方も変わるかも
- ⑤中活基本計画には当初から担い手としてKMTは位置づけられている(9章[3](2))
(追)9章[2](1)協議会の構成員58人の委員中41＝熊本まちなみトラスト がある
(アドバイザーとして㈱人間都市研究所代表取締役 も入っている)
(追)【注】2021年度が基本計画5か年の最終年→今後どうするかは見通しが立っていない

